

男 だからさ、コインランドリーは小宇宙なんだって。

女 さっき交差点で耳にしたフレーズが、こびりついて離れない。単にくるくる回る洗濯機を一つ一つの星に見立てて言ってるのか、それとも、記憶や体験がごちゃまぜになる様子まで含んでいるのか。あの日着ていたシャツ、あの日買ったパンツ。あの日の私、別の日の私がくるくと洗濯機の中で一緒にたになって、それはもう、もう一つの私なんだなあ

男 とかなんとか考えている彼女の頭の中では、宇宙船が発車準備をしているのでした。

男 点呼。

女 イチ。

男 ニ。異常なし。体調。

女 良好。

男 良好。異常なし。服装。

女 よし。

男 よし。異常なし。本日の体温は36度2分、血圧118の76、心拍数146、血中酸素飽和度98%、通常のコンディションです。

女 はい。

男 先週から始まったダイエツトキャンペーンですが、内容は分かりますか。

女 夜のジョギングですよね。

男 そうです。今日で5日目となっています。

女 すごい、今まで4日と続かなかったのに。

男 今回はよほど本気だということでしょう。応援したいですね。

女 はい。

男 それに伴い細胞が活性化したせいか、脳内宇宙環境も非常に動きが活発になり始めています。事故の無いように安全に走行してください。

女 了解。

男 なにか連絡事項はありますか。

女 ありません。

男 ○○さんは、今日は2号車です。1号車に僕が乗っています。

女 はい。

男 よろしくおねがいします。それでは夜の集会を終わります。各自業務にとりかかりましょう。

女、移動し作業場へたどり着く頃に呼び止められる

男 ○○さん。

女 あ、どうも。えっと、昼の……

男 △△です。

女 そうでした。

男 もう22年も同じ職場ですけどね。

女 すみません。昨日もこのやり取りしましたもんね。

男 一昨日も、その前もです。夜の方々は記憶がおぼろげで困ります。

女 ごめんなさい。引き継ぎ、お願いします。

男 今日はいつものA20172エリアを中心とした業務でしたが、午後に古い友人と再会し昔話に花を咲かせていましたので、Dエリアからの搬出がありました。

女 わあ珍しい。

男 私もう久しぶりにDエリアへ訪れましたが、道中がかなり入り組んでいて以前よりも見つけづらくなっています。気をつけください。

女 了解です。
男 あとですね、（ト、隣の人物を指す）
女 こんばんは。
男 □□の□□さんです。我々への密着取材ということで、業務に同行しますので、対応お願いします。
女 はあ。よろしくおねがいします。
男 昼の業務についてはひと通りご覧になってます。では。
女 今夜もバイトですか。
男 ええ。リンパで。脂肪酸の運搬です。
女 最近夜食が増えたから。
男 みたいですね、呼ばれました。
女 寝不足に気をつけてくださいよ。
男 では。

男、くると反転し記者になる

女 どうも、よろしくおねがいします。
男 お願ひします。□□の□□です。
女 はい。えーと、（ト、名刺を取り出す）夜の記憶部署配属、〇〇です。
男 バイトとかあるんですね。
女 ああ、そうなんです。私たちは、屋にご覧いただいたとおり、身体の中でいろんなものを運ぶ仕事をしてるんですね。
男 メインの職場は脳みその中なんですけど、たまに別の部署に。バイトというか出張というか。
女 なるほど。
男 取材、ですか。
女 はい。〇〇の〇〇で、ここへ。
男 はあ。初めてです。
女 ああ、ぜんぜん、お気になさらず。普段どおりで構いませんので。
男 はい。コーヒーいりますか？
女 コーヒー、ですか。
男 苦手ですか？
女 いや全く。いただきます。
男 どうぞお座りになって。

間

男 それは、
女 ん？今日の夕刊です。おたくの。
男 ああ、そうですか。

間

女 はい、どうぞ。砂糖もミルクもないしインスタントですけど。
男 ありがとうございます。

間

男 あの、これが普通ですか？
女 はい？
男 いや、めっちゃめたくつらいでらっしゃるから、大丈夫なのかと。
女 あー。ほら、いま寝る前の準備中なんで、ぼーっとしてる時間なんですよね。
男 はあ。

女 ちょっと仕事はあるんですけど、1号車の彼がほら、働いてくれてるんで。
男 ああ、部下ですか。

女 上司です。
男 上司ですか。

女 はい、なんで、まあ私はこうして情報収集に充てる、と。
男 情報収集なんですね。

女 ええ、れっきとした。
男 なるほどなるほど、いや失礼しました。

女 いえいえ。

男 昼の△△さんはずっと動いてらっしゃったので。
女 お昼は忙しいですからねえ。どうぞごゆっくり。
男 はい。

ピポン、ピポン、と内線が入る
男（1号車）から。

女 はい。

男 もしもし、〇〇さん？ 2号車着いてる？
女 まだです。

男 ちょっと急いでほしいです、いま考えごとが捗ってるみたいで、忙しくて。
女 わかりました！

通話切れる。

女 お昼、どうでしたか。

男 え、あー、そうですね、まあ噂通りというか、記憶とか思い出を倉庫から運び出してセンターに届ける繰り返しで。
女 忙しそうでしたね。

女 道混んでました？

男 そうですね、結構。ちょっと△△さんイライラされてましたよ。
女 せっかちなんですね、あの人。

男（笑）まあでも、優しくいろいろお話してくださりました。
女 そうですか。

ピポン、ピポン、と内線が入る

男 〇〇さん？
女 はい！

男 いまどこ？

女 ちょっとすいません、向かってる最中に信号待ちしてる大荷物のおばあさんが居て。
男 あー、仕方ないけど、ちょっと本気で、急いでもらえたら嬉しいな。
女 はい。

通話切れる。

女 あ、もしかして写真とか撮られるんですかね？
男 え？

女 取材でもんね。

男 ああ、写真、はい、そうですね、何枚か撮らせていただけたらと。
女 どうしよう、普通の感じで来ちゃった。
男 ああもう全然、遠くから撮ったりしましょう。

女 遠くからでも仕事の雰囲気伝わるかな。
男 大丈夫です。任せてください。
女 怪しいなあ。

ピボン、ピボン、と内線が入る
女、出ずに切る。

男 サボってますよね！？
女 え？
男 いや、仕事！
女 サボってないですよ、ぜんぜん。
男 なんかさつきから、ノート広げていろいろ書き込んでるみたいですよ。
女 考えごとは昼にやってほしいよねえ。
男 上司さん呼んでたじゃないですか。
女 ですねえ。
男 かわいそうですよ。
女 誰が？
男 上司さんが。
女 ……、かわいそう……たしかに。面白いと言いますね。
男 いいえ。
女 じゃあ行きましょっか。
男 はい。

女、ガレージから潜水艦のような宇宙船を引き出す

女 昼もご覧になったかと思いますが、私たちはこの宇宙船でモノを運びます。夜は、昼には行かないFエリアやGエリアにも行くので、丈夫な作りになっていて、スピードも速いんです。
男 たしかになんか、ゴツいですね。
女 FとかGは、すごいんですよ。楽しみにしててください。
男 はい。

間

男 ……どうしました？
女 いや、乗りますもんね。
男 はい？
女 取材ですもんね、一緒に乗りますよね。
男 そうですね。乗せていただけたら。
女 ですよ。
男 行きましょよ。
女 いや、一人乗りなんですよ。
男 へ？
女 ちょっと待ってくださいね、これダメだ。
男 ダメ……？

ピボン、ピボン、と内線が入る
女、切りもせずに無視する

女 えーと、配車センターに、行きます。
男 配車センターですか。

女 はい、走って。

二人、走って移動する
記者、配車センターのおっさんになる

女 すいません。

男 あれ、〇〇さん、まだ出てなかったのかい。

女 そうなんですよ。なんか取材？ されてて、いろいろ説明してたらこんな時間になっちゃって。

男 取材？

女 なんでも明日の朝刊に載るとか。明日ですよ？ ……明後日みたいです。

男 ほお、いいねえ。楽しみだ。

女 迷惑なだけですよお、あ、で、記者さんも乗るので、3型の二人乗り、出してほしいんですけど。

男 3型の二人乗り……無いね。

女 無い！？

男 3型はもともと一人用しか作られてないよ。

女 ええ。

男 いま出せる二人乗りはこれしかないね。

男、ボロの宇宙船を引き出してくる

女 これは……まあいいか。借ります！

男 あいよ。

記者の男、走ってきて到着。

女 走るの遅いねえ。

男 すみません。

女 はい乗って。

男 はい……なんか、随分さっきのと違いますね。

女 いいから！

二人、ボートに乗り込み、漕ぎ出す。

女 結構しんどいなこれ。

男 あの、無理してこれじゃなくても、また取材は別の機会でもいいですし、

女 大丈夫。いいじゃん、これも。

男 ……はい。

二人、黙々と漕ぐ。

女 ……あのね、これは書かないでほしいけど、取材されるって嬉しいじゃない。

男 あ……はい、

女 私、張り切っちゃってるわ。

男 なるべくいつもどおりで、お願いしますよ。

ピボン、ピボン、と内線が入る

女 もしもし、ごめんなさい、大荷物のおばあさんがもう、何人も居て。

男（上司） ……。

女 やっぱり手伝いたくなっちゃいますよねえ。こんな大きな荷物背負ってるんだもの。

男（上司） ……。
女 でもね、学んだんですよ。大荷物のはあさん全員が全員、助けを求めているワケじゃないってね。

通話、切れる

女 チツ。

男（記者） もうベッドに入っちゃったみたいですよ。

女 遅かったか。

男 はい。

女 ……たまに、なかなか思い出せなかったり、思いつかなかったりすることあるでしょう。

男 ありますね。

女 必死で考えてるのに、全然出てこないっていう。

男 はい。

女 うん。やっぱなんでもない。

男 あなたみたいにサボってる人がいるせいですよ。

女 ちよっと！ 言わないでよ。

男 というか、めっちゃ嘘つきますよね？

女 建前って言ってくれる？

男 僕の知ってる建前じゃないです

女 うるさいなあ！ もっと漕いで！

男 これ以上は無理ですよ。

女 その見た目で体力ないって何！？

男 ごめんなさい。

女 あれ、なんか向かってきてますよ。

1号車がやってくる。（キキーツ）

上司と女の会話

男 何してるの？

女 おつかれさまです。

男 これは。

女 あ、いや、実は、ちょっと新聞の取材受けてて、記者さんなんですけど、いや、すぐ出発したかったんですけど、やっぱり説明いろいろしなきゃいけないじゃないですか。それで出発遅れちゃったんです。

男 ……。

女 すいません。

男 わかった。それはしょうがないね。

女 すいません、

男 言ってよく。取材？

女 そうなんです。突然。

男 そうかそうか。どうも、よろしくおねがいします。

男 で、これで魔境も行くつもり？

女 やっぱ厳しいですかね。

男 うーん。無理ってことはないと思うけど……。

女 今まで出したことのない本気、出してみます。

男 気合でなんとか。

女 押忍。

男 頑張ってるね。なんかあったら連絡してください。

女 はい！

男 事故には気をつけてね。

男、くると翻して記者に。

男 いやマジですか！

女 なにが！

男 ゆる！ゆるすぎ！

女 いい職場でしょう！

男 やっぱりちよつと嘘つきましたし！僕のせいにしてましたし！

女 それは謝る！ごめんなさい。

男 ご迷惑でしたら、僕降りますが。

女 いや！乗っててください。

男 ……。

女 お問い合わせから。

男 はい。

問

男 魔境って、なんですか。

女 ああ、さっき言ってたね。

男 そんなすごいところにも行くんですか。

女 いやいや、ニックネーム的な？遠いエリアのことをそう呼んでるだけ。

男 ほお。

女 いまAエリアに向かっているんだけど、AとかBは仕事とか日常の短期記憶倉庫、Cからはちよつと古い記憶の倉庫な

のね。で、そのCより先のこと。

男 なるほど。

女 そして、まもなくAに到着です。

場面切り替わり。

「夢」

女 と、いう感じで、一回のルーティンです。

男 おつかれさまでした。

女 ほんとに疲れちゃってない？

男 はい、一旦休憩にしませんか。

女 ……。

男 あそこのカフェ、入りましょう。

女 一応確認なんだけど、あなた取材で来てるのよね？

男 え、はい。

女 いわゆる、お客さまよね？

男 なんですか。

女 いや、仕切ってくれちゃってるなって。

男 え？

女 いや全然いいんだけどね。カフェ行こう、とか、それわたしのセリフなんじゃないかと思って。

男 ああ……すいません。やめましょうか、休憩。

女 いやするけど。ごめん、水差して。

男 はあ。

二人、入店。

男　ちよつとお手洗いに。

男、翻して店員に。

男　いらっしゃい。

女　どうも。

男　彼氏？　いい男ね。

女　違う違う、今日初めて会った人。

男　あら。じゃあまだなのね。

女　ママ。やめてよく。わたし仕事なんだから。

男　ごめんなさい、もうすっかり夜だもんで。

女　あっち行つてて。
男　はあい。

間

女、机上に放られた男のノートを読む

女　夜。引き続き脳内記憶部署。担当の○○氏は、たび重なる上司の催促をワケもなく無視し業務を滞らせるばかりか、あげくその罪を筆者になすりつけ、八方に良い顔をする大嘘つきである。体力のない筆者をバカにし、上司も上司で無茶苦茶な精神論を容認するなど、ひどく前時代的な環境であることは否定できず、訪問を後悔している。……あのやろう。

男、戻ってくる

男　すいません、お待たせしました。なにか頼みました？

女　いいえ♪

男　……。

女　好きなもの頼んでよ。

男　奢られても、変わりませんよ。

女　チツ。可愛くねーヤツ。

男　……。

女　顔は可愛いのに。

男　そういうとこですよ。

女　なにが。

男　そういう外見とか、言うもんじゃないです。

女　ごめんなさいね。前時代的で。

男　ホントですよ。

女　あんただって、ゲストなんだから、

男　そういうことも、言うもんじゃないです。

女　仕返しくらいしたっていいでしょ。

男　僕は別に見せたわけじゃないですし。

女　そんな突つかからないですよ。

男　でも、同じ身体世界の住人ですから。

女　……。

男　広い意味で、同僚ですから。

女　……。

男　やつぱり、一人ひとりの意識が大切ですから。

女　はい。さ、行きましょう。

男　いや休憩は。

女 終わりです。ママ、ごめん、また来るね。

二人退店。

男 喉乾いたなあ。

女 さ、Cエリアに行くよう！

男 僕倒れたら、訴えますからね。

女 はいはい。

男 もおう！

女 乗りかかった船よ、最後まで付き合いなさい。

Cエリアの様子

〽ここはファンシーCエリア。

ふわふわモクモクパッチパチ

女の子も

男の子も

ワクワクドキドキ

楽しい思い出が

笑顔で

温かく

あなたに拾われるのを

待っているのさ

二人、到着。

女 着いた。

男 ここはえらく可愛らしいですね。

女 そうなの。楽しい思い出がいっぱいよ。

男 へえ。

男、翻して受付員に。

男 はいはい。お待ちしてました。2号車ですね。これとこれとこれとこれとこれ。持ってっちゃってください！

女 いっぱいだ。

男 どれも可愛らしい顔してる。きっと素敵な夢になるよ。

女 ふふ。どうも。

女、宇宙船に思い出を乗せる。

女 ふふ、載ったね。

男 なんとか。

女 よし、どんどん行こう。お次はDエリア。

Dエリアの様子

〽ここはサッドなDエリア

トゲトゲ悲しい思い出も

シトシト寂しい思い出も

ここで太陽を待っているのさ

たまにや扉を開けてやるのも
きつと悪くないもんだぜ

二人、航海中。

女 昼もDに行ったんだっけ？
男 そうです。一つだけ、大きな荷物を取りに。
女 そう。なにか悲しいことがあったのかもね。
男 でも、昼とはなんだか雰囲気が違う気がします。
女 夜は、昼よりも私たちを誘い込むのよ。
男 なんですかこれ、霧？
女 気をつけてね。万一船から落ちたら大変なことになるから。
男 はあ。

間

女 おへその方はさ、どんな感じなの？
男 なにがですか？
女 普段はおへそに居るんだよね？
男 そうです、よく覚えてましたね。
女 どうなの、最近。
男 どうっていうほどなにもないですよ。あんまり誰かが来るような場所でもないですし。
女 まあおへそと耳の奥はそんなイメージ。
男 耳の奥はすごいですよ。へそとは全然違いますね。
女 へえ。
男 外からいろいろ入ってくるからですかね、すごい、新しいです。街も人も。
女 なるほどね。
男 なんですか？
女 べつに。
男 そうですか。あ、実は最近、別荘買っちゃったんですよ。
女 耳の奥に？
男 はい。いいところです。
女 おへそから遠いじゃない。
男 別荘は遠いところじゃないと。

女、漕ぐのをやめる。
宇宙船、急停止

男 いって！
女 おかしい。道がない。
男 え？
女 △△さん言ってたじゃない、道が入り組んでるって。でも、入り組んでるところか、道がないのよ。
男 そんなことあるんですか。
女 たまにあるけど、地図の書き換えは朝に起こるから、こんなことはないはずなんだけど。
男 どうするんですか。
女 どうしよう、とりあえず交通局に連絡。
男 この霧じゃ通話できないと思いますけど。
女 ……。
男 どうしました？
女 コマンダーが、ない。

男 はあ？
女 どうしよう、どこかで落としたのかな。
男 1号車は？ なんかあったら連絡しろって。
女 それもコマンダーがないと。
男 ……
女 そんな怒らないでよ。
男 なんですかこれ。もうやってらんないですよ。くだらない。
女 怒ったってしょうがないじゃない。
男 別に怒ってないですよ。
女 ふてくされてんだ。
男 はい。
女 ふーん、いいよ。そこで見てなさい。
男 は？
女 あたし、張り切ってるから。こんなじゃめげないんだから。
男 でた。精神論。
女 精神論で結構。気合が全てよ。もういい、Dはあとまわし。えっと……、……まって、
男 ？
女 Wエリア……？

場面切り替わり。

「悪夢」

男 アンサンプル的、脳内宇宙環境の住人たちが入れ代わり立ち代わり。
女 Wエリア？ 聞いたことないねえ。
男 なんだい、おとぎ話かい？ 忙しんだ、またにしてくれ。
女 聞いたかい？ Wだつてよ。
男 聞いた聞いた、あるはずないわ。
女 ガッハッハ、エリアはGまでに決まってるだろう。
男 仮にあったとして、そんな船でどうやって行くんだい？
女 笑えるよな
男 笑えるわ
女 ガッハッハ
男 アッハッハ
女 ……

宇宙船の二人。

女 チッ。どいつもこいつも。
男 ……
女 もー！
男 ちょっと一回、休んだほうが良いんじゃないですか。
女 うるさい。
男 うるさくないです。
女 休んでられないの！
男 どうしてです。
女 夢が醒めない。
男 ……
女 醒めないダメじゃない、夢は。
男 それはそうですけど、〇〇さんもうボロボロですし。

女 ……。
男 気合じゃどうにもならないことありますから。休んでください。
女 これじゃ写真撮ってもらっても醜いもんね。

間

男 夢が醒めなかったらどうなるんですか。
女 知らない。いままでそんなこと無いから。
男 朝は、
女 来るよ。朝は来る。

間

男 いま、どんな夢見てるんですかね。
女 さあ。ただ、まだ材料が揃ってないからね。きっと不安定な夢。
男 一つ一つはこんなに可愛いのに。
女 無邪気なもんだよね。
男 不安定っていうのは、
女 それは、いろいろよ。あたしも詳しくは知らないの。
男 なんぞ知らないんですか。仕事なのに。
女 別に知る機会もないし。
男 ここって、すごく大事な仕事してる場所じゃないですか。
女 そう？
男 だって、夜は夢ですけど、昼は考え事全般、担当してるんですよ。
女 まあね。空想とか妄想もいっぱい。私たちは運ぶだけけど。
男 大事ですよ、すごく。
女 そうかな。
男 はい。なのに……、
女 なの？
男 いや、なんでもないです。
女 なに。急に隠すの？
男 あ、

男、カメラを構え女の写真を撮る

女 いま？
男 はい、良い顔になってたんで。
女 そう。
男 ○○さんの夢ってなんですか？
女 ゆめー？ なんだろう。
男 じゃあ、座右の銘はなんですか？
女 あれ、もしかして取材されてる？
男 いちばん大事な記憶ってなんですか？
女 うるさいうるさいうるさい、行こう。落ち着いた。
男 せっかく聞いてあげたのに。
女 仕事のほうが大事だからさ。
男 はい。
女 もう一回、Dに戻ってみよう。

Wエリアの様子

「ここはワーストWエリア
最果て普段は隠れてる
ここには思い出ありません
姿かたちのない未来
空想妄想想像が加速したとき
ふっと現れる小さな光

二人、再びDエリア付近に来ていた

女 あれ。

男 さつきより霧が晴れてますね。

女 ね。ほんとおかしいなあ今日は。

男 なんですかあれ。看板？

女 「この先……」、なんて読むの？

男 こうじちゅう、です。知りませんか。

女 はい。どういう意味？

男 工事、すなわち、道を作り変えたり、直したりしてるってことですね。
女 え？

女、看板を見直す

女 「耳の奥組」……？

女、くると翻し工事作業員に。

女 よお、□□つあん。

男 どうもどうも、どうです？

女 いい感じよい。いやあ、初めて来たけども、ひでえとこだな。

男 そうなんですよ。

女 ちよっくら時間はかかるが、任せな、間違いなくキレイにしてやるから。

男 よろしくおねがいします。

女 おう！

女、くると翻し船の上に

男 知り合いに頼んだんですよ。ひどい環境だから整備してくれって。
女 ……。

男 橋も架けてもらいますから。移動が楽になりますよ。

女 ……やめさせなさいよ。

男 まさかこんな場所が体内に残ってるとは思いませんでした。壊れる前に間に合ってよかった。

(女、男をビンタする)

女 なにしてくれてんのよ！

男 環境保全ですよ。

女 やりすぎ。今すぐ止めさせて。
男 イヤですよ。

女 イヤとか、そういう問題じゃないでしょ。

男 そうですね。もう止まりませんし。

女 え？……こんなの、記者のする仕事？ おとなしく記事書いてなさいよ

男 出た。いいですか？ そんなのに囚われるのはもう古いんですよ。

女 古いとか新しいとかの前に、やって良いことと悪いことがあるでしょう。

男 はい。そして、古いことは悪いことです。

女 悪くないわよ。これまでうまく回ってきたんだから。

男 うまく？（笑） そうは見えませんがね。

女 部外者のくせに……

男 当事者ですよ！ 当事者も当事者、この世界の一人なんですから。

女 ……

男 分かってもらえませんか。

女 分かりません。

男 でも受け入れてもらうしかないですよ。

女 イヤだ。

男 イヤとか、そういう問題じゃないんです。

女 分からないもんは分からないわよ。

男 それでも、です。

女 ……

男 さあ、どうしますか。そうこうしているうちにも工事は進んでいます。動き出した変化はもう止められませんよ。あなたの仕事はなんですか、夢、夢の上演だ。今こそそれぞれの仕事を全うしましょうよ。みんなでいい環境を作りましょう。

男、女にコマンダーを渡す

女 ……

男 さつき、叩きましたよね。これでチャラです。

女 ……

男 自慢の気合、見せてください。

女 あんた、後で1万発殴らせなさい。

男 暴力はいけませんよ。

女、ピボンピボン、と通話をかける

女 もしもし！

男 もしもし、良かった、通じた！

女 やっぱりそっちも？

男 ああ、おかしなことになってるね、

女 犯人がすぐそこに居ます。

男 懲らしめねえと。逃がすなよ

女 逃げないと思いますよ。

男 状況は？

女 Dで積みたい荷物がまだ積めてなくて。

男 Dね、3秒で着く。

1号車、記者に宇宙船ごと突っ込む。

上司 この野郎！

記者 事故です！ 見えましたね！

女 いいえ。

記者 こんな許されて良いんですか？

女 お前が言うな、バカ。

記者 最低。
上司 なんだこりゃ。
女 工事ですって。
上司 知らねえな。
女 全部こいつが悪いんですよ。
記者 人のせいにするのは良くないですね。
女 黙れ！

Dエリア管理人、走ってくる

管理人 ○○さーん！
女 あ、Dの管理人の……。
管理人 はあ、はあ、××です。
女 そうでした。
管理人 もう20年以上……。
女 ごめんなさい。
管理人 でもよかった、ずっと待ってたんだけどなかなか来ないから。
女 すいません。
管理人 出てみたらこれだもの。
女 中は大丈夫なんですね。
管理人 今のところは。これね。荷物。
女 ああ、ありがとうございます！
管理人 まだあるんでしょう？ 行つて！
女 はい！
管理人 夜が明ける前に！

管理人、去る

上司 助かったな。急ごう。
女 はい。
上司 次は？ Fか？ Gか？
女 Wです
上司 W？
女 そうなんですよ。その顔、私もさつきしました。
上司 知らねえぞWなんて……。
女 あんた何か知ってるんでしょ。
記者 ……。
女 喋っていいわよ。
記者 知りませんよ。
女 嘘つかないで。
記者 本当に。初めて来たんですから。
上司 本当に知らないんじゃないか？
記者 ええ。
女 もういい。黙ってなさい。

ピポンピポン

上司 業務連絡業務連絡、Wエリアについて、情報求む。Wエリアについて、情報求む。知ってる者、至急連絡されたし。

W？

知らない
知らない
知らない
知らない
知らない
知らない
知りません

上司 チッ。ダメだな。
女 ……。

上司 どうしたもんかね。ひとまず、ここに居ても仕方ないだろ。移動しよう。
女 ……。
上司 いちばん可能性が高いのは……

女、上司をじっと見つめている。

上司 どうした？

女、上司の頬を思いつきりつねる。

上司 いででででで！ ストップ！

女、つねるのをやめる。

上司 なにすんだ。
女 ですよね。

上司 え？

女 痛いですよね。

上司 痛いよ。

女 仕返ししていいですよ。

上司 は？

女 仕返ししてください。

上司 ……思いつきりいくぞ。

上司、女の頬をつねる

女 いっ……！

上司、つねるのをやめようとする。

女 続けてください！

上司、つねる。

女 ぐうう……

記者、女の写真を取る

女 ちよっと！ こんな撮らないでよ！
記者 いい顔してるんで！

女 ぐ……！

上司 何をしてるんだ？

女 気合の見せ所なんで……！！ もっと！ もっと……！！

上司、つねりの加速

女 い……たく……ないいいい……！！！！

女、尽きて果てる

舞台上手、扉が開く。

扉の裏に文字。

男 エリア・W……

暗転。

男 点呼。

女 イチ。

男 二。異常なし。体調。

女 良好。

男 良好。異常なし。服装。

女 よし。

男 よし。異常なし。本日の体温は36度4分、血圧115の73、心拍数146、血中酸素飽和度97%、通常のコン
ディションです。

女 はい。

男 今日から新しいキャンペーンが始まりました。

女 あら、ダイエツトは。

男 やめたみたいです。

女 あら。

男 それと……

記者、登場

女 え。なんで居るのよ。

記者 企画が変わりまして、長期密着のドキュメンタリーになりました。

女 はあ？

上司 我々もこれから変わってゆかねばいけませんからね。

女 いやいやいや。

記者 乗りかかった船ですから、最後まで付き合いますよ。

女 いらんいらん。

男 えー、いたるところで工事していますので、事故の無いように安全に走行してください。

女 ちよつと。

男 それでは各自業務にとりかかりますよう。

上司、退場。

女 ちよつと。

記者 よろしくおねがいします。

女 ちよつと……！！